

C&C プロジェクト 2012 成果報告書
第 3 回糸島市地域活性化プランコンテスト

代表者 九州大学大学院工学府機械工学専攻 修士 1 年 柳原大希

1. プロジェクト概要

本コンテストは、全国各地から学生を集め、糸島地域活性化のためのビジネスプランを考案してもらい、合宿形式のコンテストである。さらにコンテスト企画・運営段階では、多くの地元企業や地域住民を巻き込む、地域密着型のコンテストである。このコンテストは(1)市民と学生の真の交流を通して(2)学生に自己成長の場を提供し、(3)糸島の新たな魅力の創造、発信の 3 点を目的として実施した。

2. 達成状況

達成状況は以下のとおりである。

(1) 市民と学生の真の交流

今回のコンテストでは新たにホームステイと事業計画発表会を導入した。前回と比べ参加学生がそれぞれ違うホストファミリーのもとにホームステイすることにより、学生と市民の親密な関係を構築する場を提供した。コンテスト当日のプラン発表会、その後の事業計画発表会では約 150 名もの市民の参加があり、参加学生のみならず地域住民が地域について考える機会を提供した。また、考案されたビジネスプランの実現化にむけ、学生と地域住民が一体となることで、地域と学生が密着した地域モデルを提案できた。

(2) 学生に自己成長の場の提供

ビジネスプランという答えの無い解を求めていくことを通し、大学で学んだ自らの知識を実際の社会に応用するための新たな視点を獲得ことができ、参加学生の成長につながった。今回のコンテストではプラン発表会に加え、実行化を見据えた 2 か月もの長期的なコンテストであった。そのことによって事業計画チーム、事業実行化の際に、コンテストに参加した学生以外の学生も巻き込み多くの学生に自己成長の場を提供することを実現した。特に福岡の学生にとっては、全国各地から高い意

識を持って参加してくる他大学生と共にプランを考案し、議論を重ねることで大学内や日常生活にはない刺激を受けることができた。

(3) 糸島の新たな魅力の創造、発信

今回のコンテストで事業計画として実行化されたプランは「Global café いとをかし」商店街に九大の留学生が各国の料理を提供するカフェを運営するというものである。現時点でのべ100名以上の市民や学生が訪れている。全国の商店街は大型スーパーが撤退し、小店舗も店じまいし衰退の一途をたどっている。糸島市も例外ではない。そういった中で「Global café いとをかし」は、2000名弱の留学生数を誇る九大の特徴を活かし、グローバルな文化に触れあえる商店街という新ブランドであると言えるだろう。

3. 今後の展開

本プロジェクトは2年継続のプロジェクトであり、今年度はプランの質の向上、実行化を見据えた長期的なコンテストという目標を掲げ取り組んだ。

実行化という面では事業計画発表会からわずか1ヶ月足らずで実行化できたことは大きな成果である。本プロジェクトは普通のビジネスプランコンテストと違い地域活性化に重点を置いたプランコンテストである以上、プランをどう実現し地域に還元するかが非常に重要であると考えている。今後も引き続きプラン構築から実行化までを一連の流れとして継続を目指していく。

プランの質の向上という面ではホームステイの導入により参加学生に市民の生の声・ニーズのインプットが可能になりプランの質の向上におおいに貢献した。しかしながら強いて問題点をあげるとすれば、プランの多様性は高いとは言えず、ホームステイの影響が大きくでたのか糸島の人・暮らしにスポットを当てたものが多かった。今後の課題としては、参加学生に糸島の情報・市民の声やニーズを得る機会をできる限り提供しつつ、斬新かつ多様なプランを構築してもらえるようなプログラムにしていくことがあげられる。

また、今回のコンテストをきっかけに自らの大学でコンテストを開催すると決めてくれた学生、もともと実施していたコンテストに本プロジェクトの運営面を参考にさせてほしいという学生も現れた。他の参加学生からも“自分の住む地域を振り返るきっかけとなった”という声を多数いただいた。このことから本プロジェクトは参加学生の地域に対する意識を変化させるほどの影響力があることがわかる。今後の展望として福岡糸島の地だけではなく、日本各地に地域活性化の火種をまいていけるようなプロジェクトを目指していく。一つの可能性だが、企画・運営・実行化までの流れをパッケージ化し全国でコンテストを開催する、またはそのコンサルタントとして情報提供していくといった方向性も考えられる。さらにそのノウハウを本や雑誌として拡散していくことも可能である。こうして活性化の火種をさらに大きい炎まで燃え上がらせていきたい。